



善正寺だより

掲示板法話

心の眼は開いてますか？ 喚び声こそが暗闇の中の救い

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るっています。緊急事態宣言が出て、外出自粛や休業要請が出るに及び、学校は再び休校。本山始めお寺の法要、行事も軒並み中止、延期です。我々は真つ暗闇のトンネルに入ったような不安と恐怖の中にあります。ネット上で偽ニュースが流れ、不安に乗じた詐欺行為も発生し、コロナウイルスと共に情報のウイルスも人の弱みに付け込んで忍び寄ります。

まさにお釈迦さまがおっしゃる五濁悪世ではないか、と慨嘆します。だが、ノーベル賞学者・山中伸弥先生の「我々は今まで社会に護られてきた。今は我々が社会を護る時だ」という理性的で、なお且つ温かき言葉に眼を開かれました。社会を(ウイルスから)護るために、我々は暗闇の中にあつても心の眼を開けなければなりません。

五濁悪時悪世界

濁悪邪見の衆生には

弥陀の名号(なみだう)あたへてぞ

恒沙(こうじ)の諸仏(しよぶつ)すすめたり

〒:512-0902

三重県四日市市

小杉町1014

浄土真宗

本願寺派

善正寺

☎:059-331-1670

fax:059-332-0733



(浄土和讃・弥陀経讃)

五濁とは、劫濁(時代の濁り)、見濁(思想の濁り)、煩惱濁(貪り、怒り、愚痴など心の病が横溢すること)、衆生濁(心身共に衆生の資質が低下すること)、命濁(命が短くなること)です。こうした濁りの中にある濁悪で邪見(よこしまな考え方)の我々には阿弥陀如来の名号(南無阿弥陀仏というお念仏)を与え、ガンジス川の砂の数ほど多くの諸仏がお念仏の救いをお勧め下さつてある、という意味です。沢山の諸仏という遠い縁もゆかりもない仏さまの事だろうと思つていませぬか? そうではありません。我々の懐かしきお父さん、お母さんはじめ先だって往かれた方々も皆、お浄土のみ仏さまの一員となつて五濁の世にさまざま私たちの事をこ心配頂いて「どうかお念仏となつて呼び給う南無阿弥陀仏の願いに心の眼を開いてくれよ」と呼んで下さつて居るのです。

なぜ阿弥陀如来のお喚び声(よびこゑ)が救いなのか? 暗闇の中で見る眼をもたぬ盲冥(もうみやう)の身には声(こゑ)で気づかせる

外に手立てがないからです。

見えないウイルスから身を護り、社会を共に護るには、科学的な知見と誰も孤独にさせないという温かな言葉かけが大切です。日夜最前線で医療活動に従事しておられる方々への感謝を忘れず、「うつらない」「うつさない」ようお念仏申しつつ耐え難きを耐え忍び難きを忍んで生き抜きましょう。



お悔み申し上げます

★大塚義信様(3月18日往生、87歳、みゆきヶ丘) 合掌

★ 写真アラカルト ★



☆お詫びとお知らせ☆

新型コロナウイルス感染拡大により、かねてより予定してました下記の行事を中止致します。

4月19日(日)夜7時半 門信徒会例会(中止)

5月17日(日)午前10時『門信徒総会』(中止)

一部緊急事態も発令されましたので、ご了承下さいませ。※総会の議事報告は、5月中旬に総会資料配布を以て代えさせて頂きますので、ご承知おき下さい。

※6月以降の行事につきましては、状況をみながら適宜判断してお知らせします。

※総会の資料作成にあたりましては、関係の皆様方(新世話方様、新行事様)に適宜日時を連絡して少人数でお集まり頂き相談の上決めます。変則的な日程ですが国難ともいえる一大事ですのでよろしくご理解下さい。

◇絵手紙教室と歌声喫茶は再開時には改めて連絡します。

◇5時の鐘撞きは毎日有り。キッズサンガは6月より。

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧、毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』好評。開設11年9カ月で31万7千訪問。悩み相談歓迎

◇新納骨堂後継者のない方お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所法事場所でお困りの方本堂使用可相談下さい

坊守スケッチ

コロナ禍いつまで続く不安な日々

連日コロナ関連のニュースがトツプで紹介されて早3カ月経ちました。桜の咲く頃には落ち着くだろう。入学式を楽しみにし、初参式や降誕会も例年通り賑やかに勤めるつもりでしたが、現実は一層厳しい方向に向かい、今や全世界中に拡散して感染者数は百万人を超えました。ついには今年夏の東京オリンピックさえも一年間の延期が決定しました。

果たしていつ終息するのか、特効薬やワクチンはいつ頃発明されるのか？世界中の人が注目して疑心暗鬼に陥っています。毎日発表される日本の感染者数は増加の一途を辿り、治まる気配すらありません。テレビの会見では、クラスター(集団感染)、オーバーシュート(爆発的感染)、ロックダウン(都市封鎖)、パンデミック(世界的大流行)などのカタカナ語が次々に飛び出して、余計に不安を掻き立てます。人気芸能人の志村けんさんが急逝されたニュースには衝撃を受け、誰しも他人事ではないと気付きました。ところで長い歴史を辿ってみますと、ヨーロッパではペスト等の疫病が何度も大流行し、日本でも天然痘が流行して、歴史変革の要因となりました。病原菌の正体を全く知らなかった当時の人々は、身分の高低に関係なく、富者や貧者の区別もなく一瞬のうち



に死に追いやられ、全てを無にする疫病を恐れました。不安に駆られた人々はパニックになり、心の救済を求めて新宗教の誕生のきっかけとなりました。現代の医科学万能の時代でも、コロナ禍には未だに新薬は発見されていません。かつては一地方の風土病だった疫病が、グローバル化によって一瞬のうちに世界中に拡散されました。各国が防止策として鎖国状態ですが、果たしていつ収束できるのか予想もできません。私達が焦っても仕方ありませんが、自分第一主義の生き方を反省して、お互いを思いやる心でじっと時が来るまで待つことが肝要です。今こそ「先祖が乗り越えてきたように、全て阿弥陀様にお任せする気持ちで心静かに」お念仏申しましょう。

寄稿

運動場花に重たく春の雨 釋妙水

春場所や響く拍子木無観客

卒業式送る人なしがらんどろ

コロナ菌世界揺るがす春の塵

気配りや二本の土筆お椀なか

花屑の風に任せて吹き溜る 釋楽邦

花びらも一緒に食すピクニック

小鳥発つ風のざわめき花吹雪

春の日やコロナコロナで過ぎ行けり

忍び寄るコロナの恐怖折る春

驚の小枝揺らして鳴き競う 釋清風

☆若院夫婦の「育自な日記」65

四日市市では通常通りに新学期が始まりました。ドキドキワクワクの新学期のはずが、コロナ禍で親子とも不安と心配でいっぱいです。

一か月近い休校・春休み中、勉強、運動など色々工夫し過ごしました。時には広い公園で友だちと思いきり遊び、雨の日はカッパを着て散歩、晴れの日は境内でお弁当を食べました。室内でよく遊んだのはカルタです。我が家には、ことわざカルタ、生活カルタ、歴史人物カルタ、英語カルタ、都道府県カルタなどカルタコレクションがあります。

長女Eのお気に入り「犬棒カルタ」という「ことわざカルタ」。家族を相手に何度もやって、ことわざをすっかり覚えました。好きなことわざは「笑う門には福来る」で、理由は「だって絵が笑っているから」と言い、意味わからずとも5歳の発想の豊かさに感心します。

都道府県カルタは各都道府県が誇るNo.1が載っていて、三重県は「真珠養殖発祥の地」「錠・鍵の生産額」「ろうそくの生産額」が一番だそうです。大人も勉強になる内容で中々面白いです。

新学期からの学校生活がどうなっているのか心配ですが、落ち着いた日々が早く戻ることを願っています。

上段より続く。



遙かなる港の灯り朝霞

有明の月愛で鳥愛で花を愛ず

花影の川面に鳥の親子かな

春愁や遠き出立ちの雨の朝

カンパありがとう

渡辺定美様、阿曾香代子様、山中ツヤ子様、服部浩明様、高木重明様、谷川日出男様、川崎弘美様、他匿名様

ホットニュース

◇3月末に在所門徒様から集計しました新世話方選挙の結果を、4月初め総代三役様の協力で厳正に開票しました。詳細の票数は本堂に掲示します。次の8名の方が選出されましたのでご報告申し上げます。服部則男様、館勇次様、服部徹次様、服部和司様、佐藤和義様、伊崎司郎様、服部浩二様、館賢二様、よろしく願います。

◇新門信徒会長(行事長)に館勤様、会計に館純子様をお願いしました。

◇4月18日三全仏婦主催初参式に5組の親子が参加申し込み。尊い仏縁に感謝。本堂では三役さんと両寺住職がお勤め。終了後各班長様には、会員様に記念品の配布依頼しました

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」三二七号をお届けします。◇コロナ危機で、大人も子供も巣ごもり状態の不安と恐怖の只中にある。在宅が長いため、DV(家庭内暴力)が増えているとか、頂いた時間を大事にしたい。◇過去、感染症は世界の歴史にも大きく影響。第一次大戦中のスペイン風邪大流行で、当時の米大統領も感染、敗戦国ドイツへの膨大な賠償請求がナチスの台頭につながったとか？◇危機こそ人間のあり方が問われる。心身共健康に。南無。

桜から新緑へと季節は着実に移り変わるのに依然として
コロナウイルスの恐怖は衰えません。果たしてどうなることやら？
私もこの三ヶ月間は気を揉むことの連続でした。当初の楽
観的予想は大きく外れて事態は益々深刻化。世界中に
感染が拡大して先進医療や科学万能の時代になっても
未知の世界への人間の無力さを痛感します。私達は不安な
時ほど迷いに陥るものです。例えば恒例のお寺の行事をど
うするか？、「密閉」「密集」「密接」の三つの密を避けて例年
通り実施か否か？、万一感染者が出たら一大事。ならば
中止か延期の簡素化かと随分悩み迷いました。関係者と
相談して一応できる範囲内で短縮して実施することに決
定しました。更に私には個人的な迷いがありました。
四月と五月の後半に相次いで両眼の白内障手術を受けます。
寺の行事の合間を縫っての手術で急用が入ると何度も
手術日を変更しました。眼科医選びや単焦点か多焦点
かのレンズ選びにも迷いました。日頃からお聴聞で「何事
も阿弥陀様にお任せ」なるようにしかならない。全ては我が
身に受けた業縁よとお聞かせ頂いているにも拘わらず
心揺らぐ日々でした。経験したことのない手術への不安
からオロオロする浅はかな私でした。手術後はハッキリ見
えることを期待して手術に臨みます。どうか一日も早く
コロナ禍が終息して皆様が安心して普段通りの日
常生活に戻れることを願って止みます。くれぐれもご
自愛下さいませ。
合掌 善正寺坊守拝

令和二年 五月